

### Ⅲ 畜産物の安全性確保と危機管理対策

#### 1. 令和2年度備蓄用ワクチン等の検査実施状況

備蓄用ワクチンの検査状況（令和2年度）

名称	ロット数	検査項目	検査期間
鳥インフルエンザ（油性アジュバント加）不活化ワクチン	1ロット	無菌試験、安全試験、力価試験	令和2年6月～10月
豚熱生ワクチン（シード）	1ロット	ウイルス含有量試験	令和2年7月～9月
牛疫生ワクチン（シード）	1ロット	ウイルス含有量試験、製造・試験記録等要約書	令和3年2月～3月
口蹄疫不活化予防液（3価）	1ロット	特性試験、pH測定試験、無菌試験、不活化試験、異常毒性否定試験	令和3年4月～5月

#### 2. 令和2年度動物用医薬品の使用に伴う事故防止・被害対応業務の実施状況

(1) 令和2年度に受けた苦情等の相談

番号	相談者	対象医薬品の種類	相談内容	当所の対応
R2-1	一般	人用医薬品	当該医薬品の使用について	回答
R2-2	一般	人用医薬品	当該医薬品の副作用について	回答
R2-3	一般	人用・動物用医薬品	当該医薬品の副作用について	回答
R2-4	一般	動物用抗菌性物質製剤	当該医薬品の副作用について	回答
R2-5	獣医師	動物用生物学的製剤	当該医薬品の使用について	回答
R2-6	一般	動物用生物学的製剤	当該医薬品の副作用について	回答
R2-7	一般	動物用一般医薬品	当該医薬品の副作用について	回答
R2-8	一般	動物用一般医薬品	当該医薬品の副作用について	回答
R2-9	一般	動物用一般医薬品	当該医薬品の副作用について	回答
R2-10	一般	動物用生物学的製剤	当該医薬品の副作用について	回答
R2-11	一般	動物用抗菌性物質製剤	当該医薬品の副作用について	回答

(2) 平成 30～令和 2 年度に各都道府県から提供された野外流行株等の各都道府県からの収集状況

(単位は株数)

		30 年度	元年度	2 年度
変異や変遷等の指標となる微生物 <sup>1)</sup>	アクチノバシラス・プルロニューモニエ	30		
	豚丹毒菌	2		3
	豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス		58	37
	豚サーコウイルス 2 型		56	34
	豚サーコウイルス 3 型		30	11
野外微生物環境変化の指標となる微生物	鶏大腸菌症由来大腸菌	259	235	216
	牛及び豚（患畜）由来の大腸菌			
	パストレラ・ムルトシダ	138		
	マンヘミア・ヘモリチカ		88	71
	ストレプトコッカス・スイス		61	42
合計		429	528	414

1) ワクチンの有効性と合わせて薬剤耐性も調査

平成 30 年度までの検査結果は当所ホームページに掲載中